

## 令和6年 「新年を迎えて」

組合長代行 田中伸一

### 昼夜を問わず洋上で安全運航に努められている組合員の皆さま、新年あけましておめでとうございます

家庭を離れ日夜、船務や漁に励まれている皆さまに対し、心より敬意を表します

昨年を振り返りますと、約3年3カ月もの長期間、世界中の人々を苦しめたコロナ禍も、5月に世界保健機関（WHO）から新型コロナウイルスの「国際的な公衆衛生上の緊急事態」が解除され、日本においても感染法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行し、感染対策は個人の判断に委ねられ、大きな節目を迎えました。しかし、新型コロナウイルスの脅威が終わったわけではありません。引き続き、皆さまも健康管理には十分に配慮していただきたいと思えます。

また、近年は世界的な気候変動にともなう大きな自然災害も数多く、昨年は2月に発生したトルコ南部の大地震をはじめ、北アフリカ・モロッコの地震、リビアでは大雨による洪水、アフガニスタン西部の地震など、大きな自然災害が発生しています。また、国内においても異常気象による自然災害が多発しています。

世界情勢では、終わりの見えないロシアのウクライナへの軍事侵攻に加え、繰り返す中東での紛争に巻き込まれ、紅海を航行中の自動車運搬船「ギャラクシー・リーダー」が、イエメンの反政府武装勢力に拿捕、船員が拉致される事件が発生しました。海上を職場とするわれわれ船員にとって、海の平和と世界の平和は重要なものです。海賊事案のみならず、船員が安全で安心できる職場環境の維持・確保に向け、今後とも緊張感を持ち、関係者と連携し全力で取り組んでまいります。同時に恒久的な海の平和を希求し、戦争の加害者にも被害者にもならない「海員不戦の誓い」の運動を継続してまいります。

現在の船員社会を取り巻く環境は、平和な海を希求する活動、海難を撲滅する活動など課題は山積していますが、喫緊の課題として船員後継者の確保・育成があります。四面環海の日本において、海運・水産産業に従事するわれわれ船員の仕事は必要不可欠で、わが国の経済や国民生活を支える船員の確保・育成は、一義的には国の責任であり、海運・水産産業の将来を担う船員後継者の確保・育成に責任をもって取り組んでいただかなければなりません。船員の確保・育成の具現化に向け、諸施策の早期実施を国や関係機関に対し強く求め、関係諸団体と連携して、粘り強く活動を展開してまいります。

家庭を離れ、陸を離れた洋上を職場とし、国民生活の維持に重要な役割を果たす船員職業

は、極めて崇高なる職業であります。国民生活の維持、発展に不可欠な外航海運、内航海運、水産産業の重要性を広く国民に訴えかけ、船員職業の担い手となる若者が気概を持って飛びこめる活気ある産業にしていくために、引き続き、船員職業の啓蒙活動を展開し、産別労働組合として全力で取り組む所存です。

最後に、われわれを取り巻く環境は大変厳しくまた、複雑かつ多様化してきています。そのような状況下においても組合員の皆様の負託に応えられるよう責任を果たしていくことをお誓いし、新年のご挨拶といたします。各船のご安航をお祈り申し上げます。

「海員だより」